

第5期雄武町総合計画後期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	2	ぬくもり・雄武	整理番号	26
基本施策	8	子育て・子育ての充実	評価責任者	児童センター館長 中村 文隆
単位施策	1	「子育て」支援の強化		

1 施策の概要

基本方針	保育所（こども園）や児童センターにおいて、自然体験や多世代交流などを積極的に採り入れた保育・教育を推進するとともに、身近で安全な遊び場の確保や、児童虐待の防止対策の推進、さらにはまちぐるみでの見守りなどの安全な生活環境づくりなどに努め、「子育て」支援を地域と一体となって進めます。	
現状と課題	【現状】（平成23年度末）	【現状】（平成26年度末）
	児童センターは、児童の健全なる育成と体力増進を目的に設置され、その利用者数も年間延べ25,000人弱で推移している。こどもの日の集いやこども祭りなどの各種事業では、専門職員によるものほかに、児童民生委員や高齢者団体、高校生ボランティアなどの協力を得て、それぞれ特色のある内容で展開している。	児童センターの利用者数は、22年に子育て支援センターを保育所に移設後、幼児・一般の利用が減っているが、小学生は微増しており、年間24,000人前後の利用がある。「こどものつどい」や「こどもまつり」などの各種行事には、関係機関・団体、民生児童委員、高齢者、学校、高校生、保護者など地域ぐるみで実施している。
	【課題】（平成23年度末）	【課題】（平成26年度末）
	遊びの持つ教育効果（自主性、社会性、創造性等）が十分に発揮できるようなプログラムを考案する必要がある。 日中（平日）子どもの利用がほとんどないため、乳幼児を持つ母親などの利用を促進する必要がある。	児童センターでは、児童の健全育成を推進するため、一般利用のほかに昼間保護者が家庭にいない小学生を対象に学童保育を実施しているが、近年、利用児童増加や発達支援が必要な児童が増加しており、職員体制を充実させる必要がある。

2 基本施策指標

指標1	指標名	児童センター利用者数					
	定義等	1日の利用者数					
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						85人/日
	実績値		70.2人/日	66.75人/日	69.81人/日	66.34人/日	
指標2	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標3	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標4	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標5	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標6	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標7	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	26年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策 への貢献 度
①	放課後子どもプラン推進事業	児童センター係	4,145	A	継続/現状維持	A
②	児童ふれあい交流促進事業	児童センター係	1,155	A	継続/現状維持	A
③						
④						
⑤						
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	児童センターは、子ども達に遊びを保障する児童施設であるが、それを通して子どもの生活が安定する環境づくり(事業、施設整備)が行われている。
② 有効性	A	遊びは、子どもの人格の発達を促す上で欠かすことの出来ない要素であり、子ども達は遊びを通して考え、決断し、行動し、責任を持つという自主性、社会性及び創造性を身につけるようになる。これらの要素が児童センターに通うことによって、少しずつ身につけてきていると思われる。
③ 効率性	A	実施している事務事業は比較的自由に参加でき、あまり束縛されない環境のもとで子どもが自立できるよう支援を行っており、「子育て」の観点から効率的に活動が展開されている。
④ 公平性	A	児童センターの設置目的から、だれもが自由に利用(参加)できる。
⑤ 町民意見の反映	A	利用する児童やその保護者から意見等があったときは、可能なものについて反映するように心がけている。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A	A	
児童センターでは、遊びを通じて異年齢との交流事業、スポーツ教室、放課後児童健育成児童(学童保育)の実施や「産業まつり」、「町民文化祭」などの地域イベントへの参加のほか、各関係機関・団体、地域ボランティアなどの協力をいただき地域一体となって効果的に児童の健全育成を進めている。	同 左	

今後の方向性

継続/現状維持	継続/現状維持	
子どもの健やかな育ちと子育てを支えることは、町の最重要課題であることから、引き続き必要な人員配置や老朽化する施設の整備を行い、児童の安全や成長に配慮しながら、児童センターを核として「子育て」支援を地域一体となって進める必要がある。	同 左	

\*今後の方向性の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止